

5. 魚病対策事業

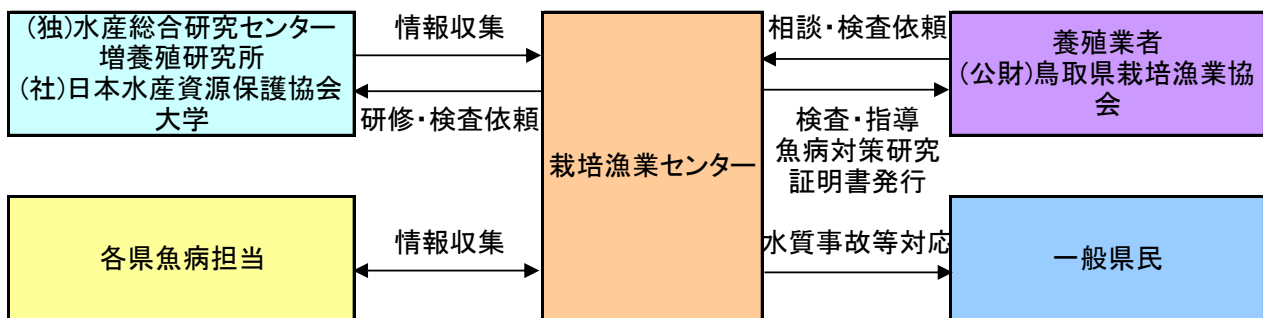
担 当：水本泰・山本健也・松田成史（養殖・漁場環境室）

実施期間：平成 19 年度～（平成 25 年度予算額：1,661 千円 一部国 1/2）

目的・意義・目標設定：

- ① 各種会議等により，魚病に関する情報交換や情報収集する。
- ② 持続的養殖生産確保法，薬事法，食品衛生法などにに基づき検査等行う。
- ③ 巡回指導や魚病検査を行い，魚病被害を低減させる。
- ④ 疾病の検査証明書を発行する。
- ⑤ 水産物の生産過程で問題となっている疾病の対策を行う。

事業展開フロー



取り組みの成果

1) 目的

各種会議等へ出席し，魚病情報の交換や収集を行う。養殖場の巡回指導，魚病検査を行い，魚病の被害を防ぐ。また，天然魚についても必要に応じて検査を行い，被害の蔓延防止対策の基礎とする。養殖生産魚について，薬剤残留検査を行い，食の安全を確保する。種苗生産期の疾病として問題となっているものの解決策を検討する。

2) 方法

①情報収集

魚病に関する全国会議や地方ブロック会議等へ参加し，魚病の防疫に関する情報収集を行う。

②巡回指導・魚病指導

県内養殖業者の巡回(生産状況，現場確認)，相談や講習会を通じて，疾病発生に関する情報提供，注意喚起を行い，適正なワクチン，薬剤使用を指導する。

③魚病検査

養殖場や天然域で斃死あるいは衰弱した水産生物の疾病について検査を行い，対処方法を指導する。

④検査証明書・水産用ワクチン使用指導書の発行

鳥取県栽培漁業センター手数料条例に従い，活魚取引上必要な検査証明書を発行する。また，水産用ワクチンの投与を希望する養殖場で事前調査を行い，使用指導書を発行する。

⑤薬剤残留検査

薬剤を使用した養殖業者の出荷予定魚に使用薬剤が残留していないか検査する。

3) 結果

①情報収集

表 1 に平成 25 年度に参加した会議等を示す。会議などを通じて魚病情報の収集や情報交換が出来た。

②巡回指導・魚病指導

平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月末日までの魚種別巡回指導件数を図 1 に示した。巡回指導は延

II. H25 成果 5 魚病対策事業

べ 56 件行った。今年度はアユカケ、ホンモロコ、ギンザケ、キジハタ、ナマズの新規着業者を中心に巡回指導を行った。

表 1 平成 25 年度に参加した会議等

日付	会議名	場所
平成 25 年 9 月 11～12 日	第 27 回近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫検討会	滋賀県彦根市
平成 25 年 10 月 31 日 ～11 月 1 日	第 15 回西部日本海ブロック魚類防疫対策協議会	兵庫県神戸市
平成 25 年 12 月 5～6 日	魚病症例研究会	三重県伊勢市
平成 26 年 2 月 3 日	中国 5 県水産系広域連携担当者会議（種苗生産技術グループ）	広島県広島市
平成 26 年 2 月 7 日	平成 25 年度クドア研究会	東京都千代田区
平成 26 年 3 月 7 日	第 2 回全国養殖衛生管理体制推進会議	東京都千代田区

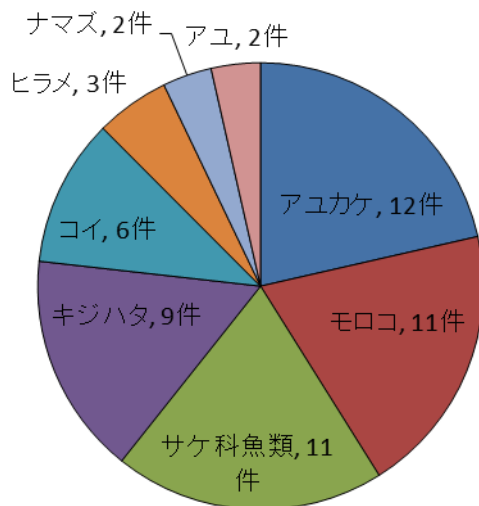


図 1 平成 25 年度魚種別延べ巡回指導件数

②魚病検査

表 2 に平成 25 年度の魚病診断状況を示した。サケ科魚類の検査が多かった。また、アユ、フナ、コイなど天然域からの検体の検査が多かった。また特定疾病のコイヘルペスウイルス病の発生が 5 件認められた。

この他、クロアワビにおいてキセノハリオチスの検査を実施した。クロアワビ種苗 300 個体、クロアワビ親貝 176 個体、エゾアワビ 15 個体を検査した結果全て陰性であった。

また、アユのイクタルリ検査を 2 回計 60 検体実施し、全て陰性であった。

表 2 平成 25 年度魚病診断状況

内水面

区分	魚種	病名	H25											合計		
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3	
養殖	ギンザケ	EIBS					1									1
		せつそう病			1									1		2
	ヤマメ	冷水病	1													1
		水腫症												1		1
	ニジマス	冷水病											1		1	
		非感染スレ症	1												1	
	アユカケ	寄生虫+エロモナス											1		1	
		不明	1												1	
ホンモロコ	不明		1											1		
天然河川	アユ	不明	1											1		
	マゴイ	コイヘルペスウイルス		1	1									2		
天然池	フナ	不明	1	1										2		
		カラムナリス			1									1		
	ボラ	不明(赤潮?)							1					1		
	海水魚	酸欠?				1								1		
民家	錦鯉	コイヘルペスウイルス			2									2		
	マゴイ	コイヘルペスウイルス					1							1		
		不明(KHV 検査陰性)										1		1		

22

海面

区分	魚種	病名	H25											合計	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3
飼育試験	マサバ	酸欠				1	1								2
		不明(種苗生産時)			1										1
	アユカケ	カラムナリス										1		1	
	キジハタ	不明(アンモニア中毒?)								1				1	
	ギンザケ	ビブリオ										1		1	

6

③検査証明書・水産用ワクチン使用指導書の発行

コイヘルペスウイルス病について 2 件，春コイウイルス血症について 1 件検査証明書を発行した。また，ワクチンの使用指導書の発行が 1 件あった。

④薬剤残留検査

薬剤の使用実績調査から，該当するものが無かったため，実施していない。

4) 考察(成果)

平成 25 年度は，平成 24 年度には発生が 1 件しか見られなかったコイヘルペスウイルス病が再

II. H25 成果 5 魚病対策事業

び5件発生している。民家や天然河川での発生が増加し、感染地域の拡大が懸念される。

5) 残された問題点及び課題

天然域で発生する魚病の対応が多いが、検体の鮮度が悪かったり、魚病以外の死因の可能性が高かったりと、原因を特定することが難しい。特に春先の大量斃死は毎年発生しており、原因究明を求められるが、前述の理由から十分に応えることができない。